

互いの考えを言葉で伝え合う力を育てる指導の工夫
— モデルから気付かせた「話す・聞く」観点の活用を通して —

義務教育研究係

吉野 幸恵（小学校教諭）

野本 英利（小学校教諭）

藤井 智章（中学校教諭）

I 主題設定の理由

激しく変化し続ける社会の中、多様な価値観を認め合うために、児童生徒たちが自分たちの思いや考えを的確に表現し、それを理解する力を身に付けさせることは、重要な教育課題となってきた。新学習指導要領でも、「言語活動を充実させ、言葉で伝え合う力を高めること」が改訂の重点として掲げられている。中でも相手と直接意思の疎通を図る音声言語で「伝え合う力」を育てることは、情報伝達やよりよい人間関係を築いていく上で、最も日常的で有効的な手段となる。学習においても、話し合いなどの言語活動を通して意見を正確に分かりやすく伝えたり、相手の話す意図を理解したりする力を身に付けることで、児童生徒は新たな見方や考え方に気付いたりすることができるようになると思う。

平成20年度の全国学力・学習状況調査における国語の結果を見ると、群馬県の小学校では「話す・聞く」領域の「自分の考えを明らかにし、相手に分かる話し方をする」など自分の意見を表現する力が不十分であることが分かる。中学校においても「立場を明らかにして理由を含めて意見を言う意欲」に課題がある。これは、今までの授業が活動に終始しがちで、学年の発達に応じた身に付けさせるべき力を明確にしてこなかったこと、また、自分の考えをもつ・伝える・聞く・振り返るなど学習過程に応じて細やかな手だてを講じてこなかったことに起因すると考える。

そこで、目指す言語能力を明らかにし、モデルから気付かせた「話す・聞く」観点を活用することを通して、互いの考えを言葉で伝え合う児童生徒を育成したいと考えた。具体的には、モデルを提示しよりよい話し方・聞き方の観点を共通理解させる。対話や話し合い際に気を付ける観点を徐々に増やし、それを確認させながら活動を重ねていくことで、相手や目的、場を意識して適切に話し合い、大切なことを伝え合う力が育つと考えた。以上のことから標記の課題を設定した。

II 研究のねらいと課題解決

1 研究のねらい

話すこと・聞くことの領域において、目指す言語能力を明らかにし、モデルから気付かせた「話す・聞く」観点を活用して、互いの考えを言葉で伝え合う児童生徒を育成する。

2 課題解決策

(1) 「話す・聞く」観点を共通理解させるためのモデル提示の工夫

導入の場面で、よい例・悪い例を、ワークシート、CD、実演などのモデルで提示し、よりよい対話・話し合いの方法についてイメージをつかませ、「話す・聞く」観点到に気付かせ共通理解させる。「話す・聞く」観点は目指す言語能力を具体化したものにする。

(2) 自分の考えをもたせるための発表メモの工夫

発表の内容を考える場面で、目的意識・相手意識・条件意識を明確にし、考えのポイントや

意見の根拠が明らかになるよう自分の考えを「発表メモ」に整理して書かせ、話し合いに臨ませる。

(3) 「話す・聞く」観点を確認する活動の工夫

各時間の初めと終わりで、「話す・聞く」観点を確認し、本時のめあてとして意識させたり、自己評価・相互評価を積み重ね達成度を実感させたりし、伝え合う力が身に付くようにさせる。

Ⅲ 課題解決のための具体的実践

【実践1】

1 題材名 小学2年 国語 「あったらいいな こんなもの」の実践を通して

目指す言語能力

◎知らせたいことを選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話す。

○大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞く。

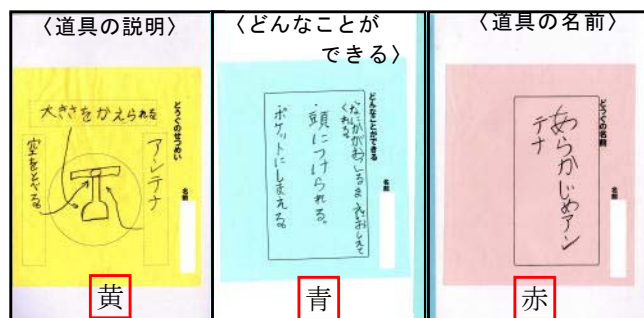
2 実践の結果と考察

(1) モデル提示の工夫

低学年は、具体的なモデルのまねをしながら話し方・聞き方を習得する段階なので、よい手本となる、分かりやすいモデルを使い「話す・聞く」観点を徐々に提示していった。そこで、単元の導入で、実際にドラえもんビデオ（モデル提示①）を見せ、ドラえもんが道具を紹介している時の話の要素に着目させた。また、ペアになって対話し、話の内容を具体的にしている場面では、教科書の付録CD（モデル提示③）を聞かせ、ペアでの対話の仕方をつかませた。その後の活動では、CD同様に互いにアドバイスしながら話す内容を豊かにし合う姿が見られた。次に、話の順序を考えさせる場面で、組み立てカード（発表メモ②）の順序を並べ替えたよい例・悪い例の2つの話し方を、教師がモデルとして実演（モデル提示④）して見せた。ここでは、どちらの順序で話した方が、聞き手にとって分かりやすい話し方を比較し考えさせることができた。また、児童は発表メモを見ながら、実際にどのように話せばよいか分かり、友達に分かるように話そうというめあてをもって学習に取り組むことができた。教師の実演を見て「メモに書いていないことを付け足して話してもよいのですか」という質問が出るなど、原稿を「読む」のではなく、メモを見ながら「話す」という具体的なイメージをもたせることができた。

(2) 自分の考えをもたせるための発表メモの工夫

低学年では、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話すことが重要である。そこで、考えをより具体的にしたり自信をもって発表したりできるよう、話す内容を要素別に3色のカード（発表メモ②「組み立てカード」）にメモさせた。その内容について友達とペアで対話し質疑応答する中で、話す内容をより具体的にし、豊かにさせた。話の順序を考える場面で、3



〈発表メモ②「組み立てカード」〉

順序を並べ替え、何パターンか試してみた

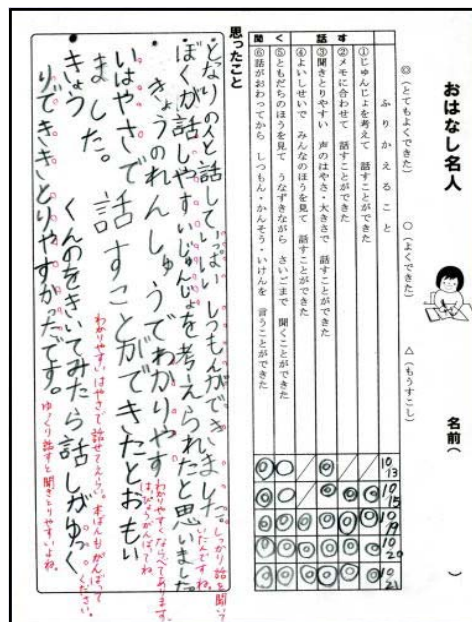


〈ペアでの対話の様子〉

色のカードを、実際に並べ替え、読み比べさせて、話す順序を考えさせた。児童はメモの並べ方を変えると、違う順序で話すことができるということを理解し、どの順序で話すのが聞き手にとって分かりやすい話し方かを比較して考えることができた。振り返りカードの自由記述欄にも、「順序を変えたら、違う話し方もできた」「紙を移動させると、よい話し方になることが分かりました」という気付きや、「名前のカードを一番最初にするとよいことが分かりました」という感想が見られた。

(3) 「話す・聞く」観点の確認

低学年の児童にとっては、めあてを明確につかませたり、繰り返し学習したりすることにより、話し方・聞き方を身に付けさせることが重要である。そこで、毎時間授業のはじめに、振り返りカードの「話す・聞く」観点を全員で読み合い、その時間に身に付けさせたい重要なものを一つ選び、本時のめあてとした。「話す・聞く」観点は、授業の進行に合わせて徐々に増やし自己評価させた。そのことにより、児童は常に「話す・聞く」観点を意識しながら学習に取り組むことができた。また、振り返りカードは、単元を通し、「話す・聞く」活動の実践がある場面で、繰り返し活用していくことにした。その結果、児童はそれまでの学習の流れや、話す・聞く活動における自己の成長を記録として見ることができ、達成感や満足感をもつことができた。また、振り返りカードに自由記述欄を設け、めあてに対応した内容を記述式で記入させた。自由記述欄は、初めは、「意見が言えた」という、事実のみを書く児童が多かったが、後半になるにしたがい「分かりやすい速さで話すことができた」「順序を考えられた」など、話し方・聞き方の方法や内容にまで触れられるようになり、成長が見られた。



〈振り返りカード〉

〈指導計画〉

指導の目標		○自分の考えたものについて、相手に分かるように順序よく話したり、友達の考えたものについて、大事なことを落とさずに聞いたりする。	
過程	学習計画	時間	支援
つかむ	○ドラえもののビデオを視聴し、あったらいいなと思うものを想像し、これからの学習に興味をもつ。	1	・モデル提示①ビデオ
	○どんな発表会をするのか知り、学習の見通しをもつ。	1	・モデル提示②教科書
	○自分が欲しい道具についてブレインストーミングし想像を膨らませ、カードに記入する。	1	・発表メモ①「あったらいいなカード」
追究する	○自分が欲しい道具を紹介し合い、質疑応答する中で、互いの考えを具体的にする。 〈ペア〉	1	・モデル提示③CD ・発表メモ②「組み立てカード」 ・振り返りカード
	○組み立てカードを使って、分かりやすい話の順序を考える。 〈ペア〉	1 本時	・モデル提示④教師の実演 ・発表メモ②「組み立てカード」 ・振り返りカード
	○話し手、聞き手に分かれて発表し、話の順序についてアドバイスし合う。 〈グループ〉	1	・発表メモ②「組み立てカード」 ・振り返りカード
	○発表会の準備・練習をする。 〈グループ〉	1	・発表メモ②「組み立てカード」 ・モデル提示⑤代表児童の実演 ・振り返りカード
まとめる	○自分が欲しい道具について発表したり、友達の発表を聞いて感想を伝えたりする。 〈全体〉	2	・発表メモ②「組み立てカード」 ・振り返りカード
	○学習を振り返り、カードに感想を書く。	1	・振り返りカード

3 研究の成果と課題

〈成果〉

(1) モデル提示の工夫

ビデオや教師・児童による実演は、具体的で分かりやすく、児童により話し方のイメージをつかませ、「話す・聞く」観点に気付かせる上で有効であった。また、CDは質疑応答の仕方をつかませ、対話により話の内容を豊かにさせていく際に効果的に活用できた。

(2) 自分の考えをもたせるための発表メモの工夫

話す内容を要素別に3色のカードに書かせたことは、自分の考えを明確にし、大切なことを落とさずに話す上で有効であった。また、実際にカードを移動させて話の順序を考えさせた方法は、視覚的に分かりやすく、順序を考え相手に分かるように話す上で効果的であった。2年生でもポイントのみを記入した発表メモを見ながら、自分の考えを分かりやすく話すことができた。

(3) 「話す・聞く」観点の確認

授業のはじめに「話す・聞く」観点を読み合い、その中で特に重要なものを本時のめあてとしたことで、児童は常に観点を意識して、学習に取り組むことができた。また、自由記述欄に、その時間のめあてに対応した内容を記述式で記入させたことにより、児童は自分の取組をしつかりと振り返り、よい話し方・聞き方を身に付けることができた。

〈課題〉

教師の実演で示したよい例・悪い例のモデルは、話の順序を考えさせる上では有効であったが、悪い点を明確に認識するまでには至らなかった。今回のようによい例・悪い例を比較して提示する場合は、低学年の児童にとって、より分かりやすい内容で提示することが重要である。また、記号で評価させた観点は、基準が曖昧になってしまった。「どのようにできたら◎」といった具体的な基準を教師が補足説明するか、一緒に取り組んだ友達と相談した上で記入するなどの手だてを工夫していく必要がある。

〔実践2〕

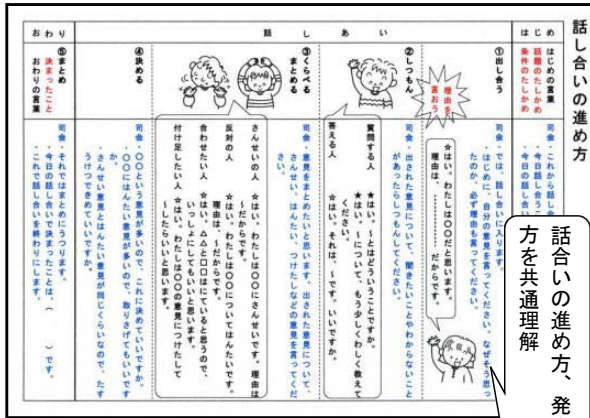
1 題材名 小学4年 国語 「話し合って決めよう」の実践を通して

目指す言語能力 友達と互いの考えの共通点や相違点を考えながら、進んで話し合う。

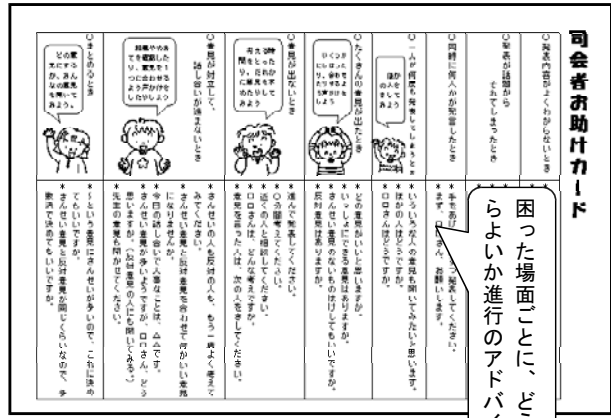
2 実践の結果と考察

(1) モデル提示の工夫

導入でよい要素、悪い要素の含まれるモデルCDを聞いて、よりよい話し合いの進め方について考えさせた。児童の気付きは「話す・聞く」観点として常に意識させるようにした。次に話し合いの流れを体験させるために、モデルCDの台本を役割を決めて読ませた。発言の仕方や司会の仕方を体験させた後で「話し合いの進め方シート」を提示し、話し合いの流れを確認しながら安心して参加できるようにさせた。また、司会者がうまく進行できないときに「司会者お助けカード」を用い、困った場面ごとにどのように助言すればよいかを示し活用させた。その結果、回を重ねるごとに発言の仕方、意見の整理・収束の方法が分かり、お互いの意見を聞き合って多くの意見の中から、グループとしての結論をまとめることができるようになった。また、友達同士で次はどう言えばよいかを教え合う姿も見られた。



〈話し合いの進め方カード〉



〈司会者お助けカード〉

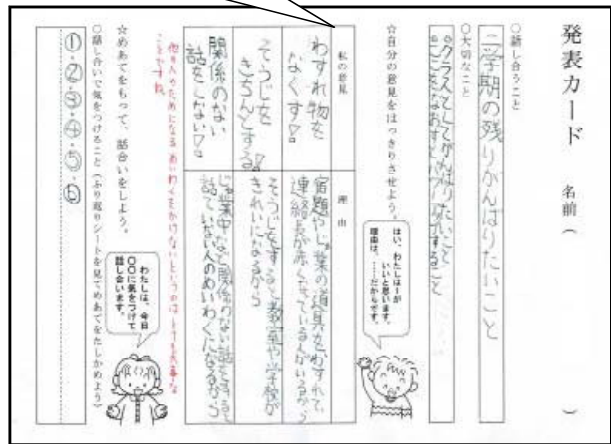
話し合いの進め方、発表の仕方、共通理解

困った場面ごとに、どうしたらよいか進行のアドバイス

(2) 自分の考えをもたせるための発表メモの工夫

自分の考えをもって話し合いに参加できるようにするために、発表メモを用いた。発表メモは、事前に話し合いのテーマ、大事なこと（条件）、自分の意見とその理由を書かせた。その後教師が目を通して、一言アドバイスを書くことによって、児童は根拠を明確にして意見を発表することができた。また、友達の意見と比較しながら賛成・反対を述べることもできた。さらに、話し合いで大事なことを意識させたため、どの児童もテーマにそって意見を整理・収束することができた。

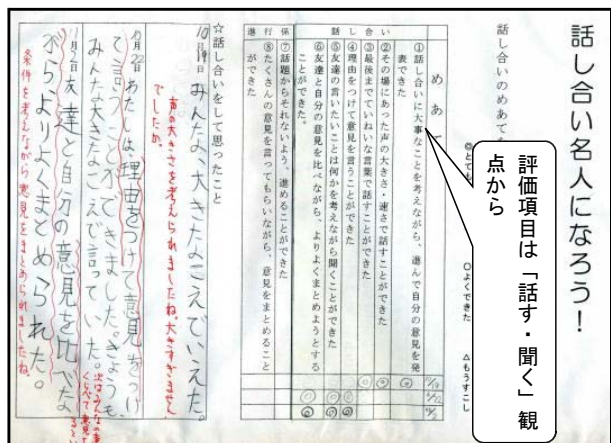
テーマ、条件、意見と理由を記入して話し合い



〈発表メモ〉

(3) 「話す・聞く」観点の確認

モデルを使って共通理解した「話す・聞く」観点を振り返りの項目にした。これは、目指す言語能力を具体化したものでもある。話し合いの前に、「話す・聞く」観点を確認し学級全体の本時のめあてとしたり、前回不十分だった項目について個人で意識させたりした。話し合いの最後に「振り返りカード」に三段階で自己評価させ、「話す・聞く」観点に対してどこまで力がついたか実感できるようにさせた。「振り返りカード」に自由記述欄も設けることで、グループ全体の話し合い活動に対しても評価させるようにした。はじめは発表

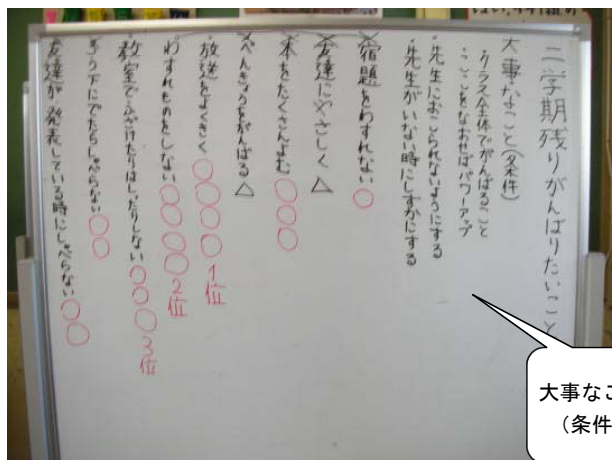


〈振り返りカード〉

の仕方など技術的なよさに目を向けていたが、活動を重ねるにつれ、条件にあった意見にまとめようとするなど話し合いの流れや内容に着目できるようになった。さらに、自分たちのグループの話し合いの流れを視覚的に振り返るようホワイトボードを使用した。話し合いのテーマや条件を意識しながら意見は出されているか、自分の意見は生かされているか、意見を整理し収束する過程を常に確認しながら活動することができた。また、記録係を順番に行うことで、話し合いの流れをとらえることができ司会になったときに進行をよりスムーズに進めることができた。

話し合いの名人になろう！
評価項目は「話す・聞く」観点から

お互いに審査し合う活動では、話し合いを見合い、「しんさ員カード」を用いて相手のよさや改善点をアドバイスし合った。その結果、自分では気付かなかったよさや改善点が明確になり、自分の話し方を客観的に評価してもらうことができた。



〈ホワイトボード〉



〈友達の話し合いを審査し合う児童〉

しんさいんカード

やった人 ()
しんさ員 ()
より ()

◎とてもよかったです ○よかったです △もう少し

方	○話題からそれずに、連んで意見を発表していたできた
方	○その場にあった声の大きさを、速さで話していた
話	○最後までで、いい言葉で話していた
話	○理由をつけて意見を言っていた
話	○賛成や反対、まとめる意見を言っていた
司会者	○話をしていた子には、こちらもつけてあげよう
方	○話題からそれないよう進んでいた
方	○たくさん意見が出るようよびかけることができた
進	○意見をまとめることができた

よかったです
みんなのよさをたくさんする理由と意見を書いてよかったですと思いま
だれがしゃべっている間に、しゃべっている時がある間、しゃべらずに開いていると、いいと思います。

この活動で、みんなの意見を聞き、手紙

〈しんさ員カード〉

〈指導計画〉

指導の目標			
○友達と自分の考えの共通点や相違点を整理しながら、話し合う。			
進	学習計画	時	支援
つかむ	○モデルCD「1年生に読んであげる本を決めよう」を聞いて、よりよい話し合いの進め方について考える。	1	○よい要素、悪い要素の含まれるモデルCD ○モデルCDの台本
	○発表メモの書き方を通して、自分の立場をはっきりさせ、条件に沿って話し合うことを理解する。	1	○発表メモ ○「話し合いの進め方」カード ○司会者お助けカード
追究する	○「話し合いの進め方」シートに沿って「1年生に読んであげる本」についてグループで話し合う。	1	○発表メモ ○「話し合いの進め方」カード ○司会者お助けカード ○ホワイトボード ○振り返りカード
	○みんなの意見を比べながら、「1年生と遊んであげるもの」についてグループで話し合おう。	1	○発表メモ ○「話し合いの進め方」カード ○司会者お助けカード ○ホワイトボード ○振り返りカード
	○クラスを2班に分け、話し合いの様子を審査し合う。	2	○発表メモ ○「話し合いの進め方」カード ○司会者お助けカード ○ホワイトボード ○振り返りカード ○しんさ員カード
まとめる	○グループごとに自分たちの話し合いを振り返り、話し合ったことを発表する。 ○よりよい話し合いについて、みんなで確かめる。	1	○「話し合いの進め方」シート ○振り返りカード ○しんさ員カード

3 研究の成果と課題

〈成果〉

(1) モデル提示の工夫

導入でモデルCDを活用し、話し合いのイメージをつかませることができた。「話し合いの進め方カード」に沿って、意見を出したり整理したりする手順を共通理解しながら繰り返すことでお互いの意見を聞き合い、意見を収束させることができるようになった。また、誰が司会担当になっても落ち着いて話し合いを進められた。話し合いの中で賛成や反対などを言うために、友達の言いたいことは何かを意識しながら聞き、それを受けて話すことの大切さを共通理解をすることができた。

(2) 自分の考えをもたせるための発表メモの工夫

事前に発表メモを書くことにより、どの児童も意見と根拠を明確にして意見を述べることができた。また、友達と自分の意見の共通点と相違点を考えながら意見を整理することもできた。さらに、テーマや条件を意識させたことで、話題に沿って話し合いを進めることができた。教師は、児童がもっている意見を事前に把握することができた。

(3) 「話す・聞く」観点の確認

「話す・聞く」観点を活用し、学級や個人の本時のめあてを意識しながら話し合いを行えた。振り返りカードにその達成度について記述することにより、よりよく話したり聞いたり自分ができるようになったことを実感することができた。また、ホワイトボードで話し合いの流れが確認でき、班としての話し合いや自分の意見の出し方について客観的に振り返ることができた。さらに、友達から「話す・聞く」観点に基づいて審査をしてもらったことで自分では気付かないよさや課題を明確にすることができた。

〈課題〉

本単元で身に付けた話し合い方を様々な場面で活用し、使える力にしていきたい。また、自己評価において、評価基準が曖昧になりやすいので、具体的なめやすを教師がはっきり示していかななくてはならない。

【実践3】

1 題材名 中学2年 国語 「ディベート」の実践を通して

目指す言語能力

相手の立場や考えを尊重し、話し合いが目的に沿って効果的に展開するように話したり聞き分けたりして、自分の考えを深める。

2 実践の結果と考察

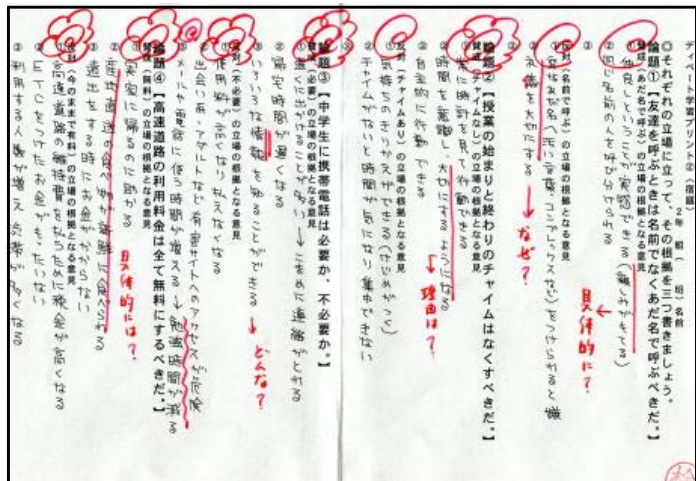
(1) モデル提示の工夫

ディベートを始めるにあたり、簡単な論題で模擬ディベートを実施し、ディベートのやり方を希望者8名に実演させ、その様子を残りの生徒に説明を加えながら見せることでモデルの提示とした。進行は教師が務め、よかったところをほめたり、補足・訂正を加えたりするなどして、よりよいディベートのための7観点を共通理解させた。

時間を止めてその都度教師がアドバイスをしたことで、生徒は「立論」や「反対尋問」の仕方などイメージをもつことができ、よりよい話し方・聞き方について考えることができた。実演者8名はしっかりと意見（情報）をもつことや、話し合うことで考えを深めていくことの大切さなどを実体験することができたり、各班に戻った時に、他のメンバーにディベートの手順を伝達したりすることができた。

(2) 自分の考えをもたせるための発表メモの工夫

事前に発表メモ【ワークシート②】に、全ての論題の賛成と反対の立場の意見を考えさせ記入させた。教師は全員のプリントに目を通し、意見が思いつかない生徒にはヒントを与えたり、情報を集め考えが広がったことを称賛したりするようにした。グループで話し合ったことを発表する時にはホワイトボードを使用し、相手や聴衆に自分たちの意見が分かりやすいように主張の三つの柱を書かせ、黒板に掲示させた。その結果、ディベーターは、自分の意見をもって班の意見交流に臨み、



〈発表メモ「ワークシート②」〉

説得力のある情報を選び根拠として提示することができた。また、相手の反対尋問を予想したりすることにも役立てることができた。聴衆も、自分の考えた意見とディベーター同士が出合っている意見とを比較し、説得力があるかを評価したり、自分の考えをより明確にしたりするのに役立てることができた。また、音声は消えてしまうが、ホワイトボードを使うことで主張が明確に提示でき、どの主張に対して反論や質問が交わされているのかが分かりやすくなった。

(3) 「話す・聞く」観点の確認

ディベート実施前に、前時の振り返りを行うなかで、前回の授業で出された意見を紹介したり、ディベートのポイント（7観点）について再確認したりした。

ディベートの実施中には、ワークシートを使い以下のような観点で確認を行った。

ディベーター【ワークシート③】

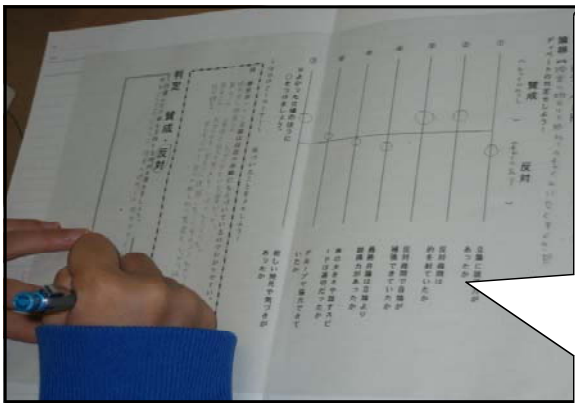
- ① 7観点による自己評価
- ② ディベートを終えて気付いたこと
(両方の班のよかった点・反省点)

聴衆【ワークシート④】

- ① 7観点によるディベーターの評価
- ② ディベーターのよかったところ
- ③ 賛成・反対の判定とその理由

ディベートの7観点

- ① 立論の説得力
- ② 反対尋問の的確性
- ③ 反対尋問による自論の補強
- ④ 最終弁論の説得力
- ⑤ 声の大きさや話すスピード
- ⑥ 班での協力
- ⑦ 新たな発見や気づき



ディベートの7観点について評価



〈反対派の立論の様子〉

〈聴衆用評価用紙「ワークシート④」〉

また、ディベート終了後にディベーターと聴衆にワークシートに書いたことを発表させたり、判定結果が出た後に、支持した理由を聴衆に述べさせたりするなどの振り返り活動も行った。

その結果、毎回ディベートのねらいを強く意識付けさせてから実施することができたり、「前回よりももっとよい方法はないか」「どんな工夫をすれば相手に勝てるのか」など新たな視点でディベートに参加できたりするようになった。

〈指導計画〉

指導の目標 ○ディベートを通して互いの発言を検討して自分の考えを深める。			
過程	学習計画	時間	支援
つかむ	○ワークシート①を使ってディベートの目的やルール、手順の確認を行い、共通理解を図る。 ○代表生徒によるモデルディベート『学校での昼食は、給食がいいか、弁当がいいか』を行う。 ○ワークシート②（発表メモ）に授業で扱う全ての論題に対する自分の考えを記入する。	1	○ワークシート①（手順確認用） ○代表者によるモデルディベート ○ワークシート②（発表メモ）
追究する	○ワークシート②（発表メモ）をもとに班ごとに意見交流を行う。 ○ディベートのための準備をする。 ・役割分担を決める。 ・情報を集める。（聞きとり、インターネットなど） ・班の意見をまとめる。 ・ホワイトボードに書く。	1	○ワークシート②（発表メモ）
	○第一回目のディベート『友達を呼ぶときはあだ名で呼ぶべきか、あだ名で呼ばないべきか』を行う。	1	【ディベーター】 ○ワークシート②（発表メモ）
	○第二回目のディベート『授業の始まりと終わりのチャイムは必要か、不必要か』を行う。	1 本時	○ワークシート③（ディベーター用） ○ホワイトボード
	○第三回目のディベート『中学生に携帯電話は必要か、不必要か』を行う。 ○第四回目のディベート『高速道路の利用料金は有料にするべきか、無料にするべきか』を行う。	1	【聴衆】 ○ワークシート② ○ワークシート④（聴衆用）
まとめる	○全四回のディベートを振り返り、学んだことを発表しあう。		○ワークシート② ○ワークシート③ ○ワークシート④

3 研究の成果と課題

〈成果〉

(1) モデル提示の工夫

模擬ディベートという形でモデルの提示をしたことで、実演者8名はもとより、その8名が各班の指導者として活躍し、聴衆もよりよい話し方・聞き方について考え、イメージをもつことができた。また、模擬ディベートだけがモデルとなるのではなく、他の班のディベートを一つの「モデル」としてとらえ、評価することがよりよいディベートの仕方を理解し、伝え合う力を身に付ける上で役に立った。

(2) 自分の考えをもたせるための発表メモの工夫

発表メモとして【ワークシート②】を使い、全ての論題に対して賛成・反対の両立場の主張を考えさせたことで、ディベーターの時は自分の立場を明確にし話合いに臨んだり、意見交流したりすることができた。また、聴衆の時は、ディベーターの根拠と自分の考えとを比較するなど、話題に沿ってディベートを見ることに役立てた。ディベーターが、ホワイトボードに3つの主張を明確に示し掲示したことも、話合いの流れを分かりやすくする上で有効であった。

(3) 「話す・聞く」観点の確認

ワークシートにディベートの観点（7観点）を明確に提示し、毎回確認してからディベートを行った結果、ディベート後の意見や感想の内容が、「話し方」だけでなく「内容」や「情報の扱い方」に関するものへと変化した。また、反論を受け止めた上での主張を工夫するなど、互いの考えを適切に伝え合うことができるようになった。

〈課題〉

反対尋問に対する反論はできるが、限られた時間の中で立論を補強する反論をしたり、最終弁論で意見を再構成したりすることが難しかった。「伝え合った内容を整理し、自分の考えとして話す力」を付けさせるさらなる手立ての工夫が必要であると感じた。

IV 研究の成果と課題

1 成果

(1) モデル提示の工夫

よい例や悪い例をCDや教師の実演で示す、実際にまねしたりロールプレイしたりする、友達の話し合う様子を見るなど、発達段階や学習場面に合わせたモデルを提示することにより、児童生徒はよりよく話す・聞く活動を具体的にイメージし、「話す・聞く」観点を共通理解することができた。それらの活動を積み重ねていくことにより、伝え合う力を高めることができた。

(2) 自分の考えをもたせるための発表メモの工夫

小学校低学年では、クラス全体で考えをふくらませたり、ペアやグループで交流してアドバイスし合ったりしながら、自分の考えのポイントをメモでまとめ、それをつなげて順序よく話すことができた。中学年・中学生の話合いでは、発表メモを活用したことで相手意識・目的意識条件意識を考えながら自分の意見と根拠を明確にして話すことができた。根拠は自分の体験・調査結果など学年によって異なったが、いずれも児童生徒は分かりやすく、説得力のある話し方を身に付けることができた。また、考えのポイントや意見の根拠が明らかになるよう自分の考えを「発表メモ」に整理して書いたため、友達の意見と比べながら聞くこともできた。

(3) 「話す・聞く」観点の確認

モデルから気付かせた「話す・聞く」観点を「振り返りカード」の中に示し、対話や話合い活動の初めと終わりに確認させながら活動を重ねた。目指す言語能力に基づき観点を具体的に示したため、無理なく力を付けることができた。児童生徒は観点を意識して活動に取り組み、自己の変容を実感しながら、互いの考えを言葉で適切に伝え合うことができた。

2 課題

「話す・聞く」観点を確認することはどの学年も有効であったが、小さい学年では自己評価が曖昧になるので、状況に応じてさらに具体的な評価基準を教師が説明する必要があった。

おはなし名人



名前()

◎ (とてもよくできた)

○ (よくできた)

△ (もうすこし)

聞き	く	話	す		
⑥ 話がおわってから	⑤ ともだちのほうを見て	④ よいしせいで	③ 聞きとりやすい	② メモに合わせて	① じゅんじよを考えて
しつもん・かんそう・いけんを	うなずきながら	みんなのほうを見て	声のやささ・大きさを	話すことができた	話すことができた
言うことができた	さいごまで	話すことができた	話すことができた		
	聞くことができた				

思ったこと

発表カード

名前（

）

○話し合うこと

○大切なこと

☆自分の意見をはっきりさせよう。

はい、わたしは、
いいと思います。
理由は、……だからです。



私の意見	理由

☆めあてをもって、話し合いをしよう。




わたしは、今日
○○に気をつけて
話し合います。



○話し合いで気をつけること（ふり返りシートを見てめあてをたしかめよう）

Vertical rectangular box with a dashed line down the center, intended for writing notes.

話し合いの進め方

はじめ	話しあい		おわり
<p>はじめの言葉 話題のたしかめ 条件のたしかめ</p>	<p>① 出し合う</p>  <p>理由を 言おう</p>	<p>③ くらべる まとめる</p>  <p>④ 決める</p>	<p>⑤ まとめ 決まったこと おわりの言葉</p>
<p>司会・これから話し合いを始めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日話し合うことは ・ 今日の話し合いで、大事なことは <p>（ ） についてです。 （ ）です。</p>	<p>司会・では、話し合いに入ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はじめに、自分の意見を言ってください。なぜそう思ったのか、必ず理由も言ってください。 <p>☆はい。わたしは〇〇だと思います。 理由は、……………だからです。</p>  <p>司会・出された意見について、聞きたいことやわからないことがあったらしつもんしてください。</p> <p>質問する人 ☆はい。〇とはどういうことですか。 ★はい。〇について、もう少し詳しく教えてください。 ☆はい。それは、〇です。いいですか。</p> <p>答える人</p> <p>司会・意見をまとめたと思います。出された意見について、さんせい、はんたい、つけたしなどの意見を言ってください。</p> <p>さんせいの人 ☆はい。わたしは〇〇にさんせいです。理由は、〇だからです。</p> <p>反対の人 ☆はい。わたしは〇〇についてはんたいです。理由は、〇だからです。</p> <p>合わせたい人 ☆はい。△△と□□はにていると思うので、いっしょにしてもいいと思います。</p> <p>付け足したい人 ☆はい。わたしは〇〇の意見につけたして〇したらいいと思います。</p> <p>司会・〇〇という意見が多いので、これに決めていいですか。 〇〇にはんたい意見が多いので、取りさげてもいいですか。 さんせい意見とはんたい意見が同じくらいなので、たすうけつできめていいですか。</p> <p>司会・それではまとめにうつります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の話し合いで決まったことは、 ・ これです。 ・ これで話し合いを終わりにします。 		<p>司会・それではまとめにうつります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の話し合いで決まったことは、 ・ これです。 ・ これで話し合いを終わりにします。

司会者お助けカード

<p>○発表内容がよくわからないとき</p>	<p>*もう少し詳しくわしく説明してください。 *大きな声で発表してください。</p>
<p>○発表が話題からそれてしまったとき</p>	<p>*話がそれてしまったようです。 *今は、○○について話し合ってください。 *今日の話し合いに大事なことは、△△です。</p>
<p>○同時に何人かが発言したとき</p>	<p>*手をあげて一人ずつ発表してください。 *まず、□□さん、お願いします。</p>
<p>○一人が何度も発表してしまうとき</p> <p>ほかの人をさしてみよう</p>	<p>*いろいろな人の意見も聞いてみたいと思います。 *ほかの人はどうですか。 *□□さんはどうですか。</p>
<p>○たくさんさんの意見が出たとき</p> <p>いくつかにしぼったり、合わせたりするよう声かけをしよう</p>	<p>*どの意見がいいと思いますか。 *いっしょにできる意見はありますか。 *さんせい意見のないものはけしてもいいですか。 *反対意見はありますか。</p>
<p>○意見が出ないとき</p> <p>考える時間をとったり、だれかに意見を求めたりしてみよう</p>	<p>*進んで発表してください。 *○分間考えてください。 *近くの人と相談してください。 *□□さんは、どんな考えですか。 *意見を言った人は、次の人をさしてください。</p>
<p>○意見が対立して、話し合いが進まないとき</p> <p>話題やめあてを確認したり、意見を1つに合わせるよう声かけをしたりしよう</p>	<p>*さんせいの人も反対の人も、もう一度よく考えてみてください。 *さんせい意見と反対意見を合わせて何かいい意見になりませんか。 *今日の話し合いで大事なことは、△△です。 *さんせい意見が多いようですが、□□さん、どう思いますか。(反対意見の人にも聞いてみる。) *先生の意見も聞かせてください。</p>
<p>○まとめるとき</p> <p>どの意見にするか、みんなの意見を聞いてみよう。</p>	<p>*くという意見にさんせいが多いので、これに決めてもいいですか。 *さんせい意見と反対意見が同じくらいなので、多数決で決めてもいいですか。</p>

話し合い名人になろう！

名前（

話し合いのめあてをたしかめよう

◎とてもよくできた

○よくできた

△もうすこし

話し合い		めあて
①話し合いに大事なことを考えながら、進んで自分の意見を発表できた		/
②その場にあつた声の大きさ・速さで話すことができた		/
③最後まででいいいな言葉で話すことができた		/
④理由をつけて意見を言うことができた		/
⑤友達の言いたいことは何かを考えながら聞くことができた		/
⑥友達と自分の意見を比べながら、よりよくまとめようとすることができた。		/

係行進	
⑦話題からしれないよう、進めることができた	
⑧たくさんさんの意見を言ってもらいながら、意見をまとめることができた	

☆話し合いをして思ったこと

月日	
月日	
月日	

しんさいんカード 話し合った人（

しんさい員（

◎とてもよくできた

○よくできた

△もうすこし

）さんへ

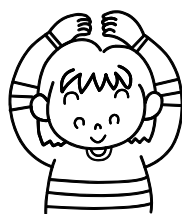
）より

話	○話題からそれずに、進んで意見を発表していたできた	
し	○その場にあった声の大きさ・速さで話していた	
方	○最後まででいいいな言葉で話していた	
	○理由をつけて意見を言っていた	
	○賛成や反対、まとめる意見を言っていた	

司会者をしていた子には、こちらもつけてあげよう。

方	○話題からそれないよう進めていた	
め	○たくさんの意見が出るようよびかけることができた	
進	○意見をまとめることができた	

よかったところ



こうするともっとよくなると思います



◎ディベートとは？

- ① 問題を () の角度から徹底的に検証していくことができる。
- ② 意見交流を通して () を作り出していく素地ができる。

◎ディベートの流れ

① 事前準備

- ・各自が論題に対する賛成・反対両立場の主張と根拠について考える。
- ・根拠となる資料や情報を集める（インタビュアー、インターネット検索など）。
- ・肯定派と否定派に分かれて（四人一組のグループ）て話し合い、自分たちの立場の主張を深める。

・自分たちの主張に対する「反対尋問」を予想し、それに対する答えを考える。

② ディベートを行う

- ・肯定側の立論 …… 3分
- ・否定側の立論 …… 3分
- （作戦タイム） …… 2分
- ・否定側の反対尋問 …… 3分
- ・肯定側の反対尋問 …… 3分
- （作戦タイム） …… 2分
- ・否定側の最終弁論 …… 3分
- ・肯定側の最終弁論 …… 3分
- （聴衆による判定）

○立論
自分たちの立場とその根拠を明らかにし主張する。

○反対尋問
相手側の主張や根拠の欠点を、質問形式で指摘する。

○最終弁論
相手側の主張に比べ自分たちの立場がより正しいことを示す。

③ ディベートの判定を行う

- ・「どちらの主張により深く納得したか」「論の展開」「根拠の確かさ」「話の仕方」などに注目して判定を行う。

※本日のモデルディベートを観て（体験して）、二つのポイントで感想を書こう！

○「よかったと思った班（立場）」に対して

①どの主張や根拠に「なるほど！」と思いましたか。

②発表する時の「話し方や態度」でよかったことは何ですか。

◎それぞれの立場に立って、その根拠を三つ書きましよう。

論題①【友達を呼ぶときは名前でなくあだ名で呼ぶべきだ。】

賛成（あだ名で呼ぶ）の立場の根拠となる意見

②

③

① 反対（名前で呼ぶ）の立場の根拠となる意見

②

③

論題②【授業の始まりと終わりのチャイムはなくすべきだ。】

① 賛成（チャイムなし）の立場の根拠となる意見

②

③

① 反対（チャイムあり）の立場の根拠となる意見

②

③

論題③【中学生に携帯電話は必要か、不必要か。】

① 賛成（必要）の立場の根拠となる意見

②

③

① 反対（不必要）の立場の根拠となる意見

②

③

論題④【高速道路の利用料金は全て無料にするべきだ。】

① 賛成（無料）の立場の根拠となる意見

②

③

① 反対（今のままで有料）の立場の根拠となる意見

②

③

① 私たちの班は
 立論 ○ (賛成・反対)

私たちの主張

③ ② ①

② 相手の立論をメモしよう！

③ ② ①

④ 相手の反対尋問をメモしよう！

③ ② ①

③ 相手の主張のココがおかしい！
 (作戦タイム①)

③ ② ①

⑤ 反対尋問に答えよう！
 (作戦タイム②)

③ ② ①

⑥ 今回のディベートを振り返って、自己評価をしましょう。(◎・○・△の三段階で)

⑦	新しい発見や気づきがあったか		
⑤	声の大きさや話すスピードは適切か		
③	反対尋問で自論が補強できていたか		
①	立論に説得力があったか		
⑥	最終弁論は立論より説得力があったか	④	②
	グループで協力できていたか		
⑦	新しい発見や気づきがあったか		

⑦ ディベートを終えて、気づいたこと・なるほどと思ったことを書こう。

第 ④ 回 ディベート 論題

ディベートの判定をしよう！

賛成 () () () () () () ()
反対 () () () () () () ()

①	立論に説得力があったか
②	反対尋問は的を射っていたか
③	反対尋問で自論が補強できていたか
④	最終弁論は立論より説得力があったか
⑤	声の大きさや話すスピードは適切だったか
⑥	グループで協力できていたか
⑦	新しい発見や気づきがあったか

※よかった立場のほうに○をつけましょう。

くなるほど！コーナーへ 気づいたことをメモしよう！

例 藤井君・・・立論は部活の体験にもとづいているのでわかりやすい。

判定 賛成・反対

◎選んだ立場を支持する理由を書きましょう。